令和5年度

島根県立情報科学高等学校　学校評価報告書

本校の目指す教育（ビジョン）　～地域との協働を通じたデジタルイノベーション創出人材の育成～

教育目標	重点目標	目標達成のための方策	評価指標と肯定的評価の割合	自己評価と改善策	学校運営協議会の評価（意見）
普通教育ならびに情報・ビジネスに関する専門教育を施し、健康で心豊かな人間性を育成する ⑵⑴地域を担う、情報・ビジネスに関する将来のスペシャリストの育成（専門性の育成） 社会人としての規範意識や倫理観を身につけた感性豊かな人間の育成（人間力の育成）	A 今と未来を見つめ、主体的に取り組む能力（主体性）	・望ましい授業態度の育成 ・家庭学習の習慣づけ ・基礎学力向上講座や試験前特別講座等の支援の充実 ・日常的な挨拶や、身だしなみを整える指導の徹底と継続的な声掛け ・部活動加入の奨励 ・JS（情報サポーター）制度による上級生の責任感醸成と実践力の育成 ・関係機関との連携による的確な進路情報の提供と、進路相談、面接・小論文作成指導等の充実 ・防災（避難）、交通安全、情報モラル等に関する指導の充実	①生徒は、授業に真面目に取り組んでいる。 〔　生徒：92%　保護者：91%　教職員：86%　〕 ②生徒は、家庭学習に真面目に取り組んでいる。 〔　生徒：42%　保護者：63%　教職員：17%　〕 ③生徒は、スタディサプリ（朝学習等で実施）に真面目に取り組んでいる。 〔　生徒：57%　保護者：77%　教職員：49%　〕 ④生徒は、ビジネスマナー（身だしなみや挨拶、提出期限厳守等）を身につけている。 〔　生徒：88%　保護者：81%　教職員：60%　〕 ⑤生徒は、部活動に積極的に取り組んでいる。 〔　生徒：87%　保護者：83%　教職員：63%　〕 ⑥生徒は、生徒会やJS制度等を通じて、「生徒達がある程度自主的に学校行事等を運営している」と感じている 〔　生徒：54%　保護者：81%　教職員：49%　〕 ⑦生徒は、提供された進路に関する情報を参考に、目標に向けた取り組みを進めている。 〔　生徒：69%　保護者：77%　教職員：51%　〕 ⑧生徒は、災害や交通事故等から適切に身を守る方法や情報モラルを身につけている。 〔　生徒：78%　保護者：81%　教職員：51%　〕	②、③の結果より、生徒の4割から6割が、家庭学習や朝学習への自主的な取り組みが十分ではないと考えており、多くの教職員、保護者も同様に感じていることがわかる。 各教科指導では、家庭学習用の課題を準備するなど様々な工夫を行っているが、家庭学習が習慣として確立するに至っていないと考えられる。 今後、学習のみならず、⑤の部活動や⑥の生徒会活動、⑦の進路を探究する活動等への積極的な取り組みを促しながら、生徒が何事にも主体的に取り組む姿勢を育んでいく。	家庭学習への取り組み姿勢について、生徒、保護者、教職員で捉え方が大きく異なるとわかった。 安来市では高校生の試験前の自習スペースを準備しているので、希望があれば対応可能である。 目標となる家庭学習時間の目安があると取り組みやすい。 非認知能力、コミュニケーション能力の向上なども大事にしたい。 放課後学校で学習したり、アプリを使った学びで興味を持たせる方法もある。 課題研究成果発表会で、自分の学習方法を伝えたいという発表は迫力があった。内発的なものに期待するだけでなく、外から意欲を高めていこうとする取り組みがあっても良い。
	Aの肯定的評価平均〔　生徒：71%　保護者：79%　教職員：53%　〕				

重点目標	目標達成のための方策	評価指標と肯定的評価の割合	自己評価と改善策	学校運営協議会の評価（意見）
B 他者と円滑な人間関係を構築する能力・協働する能力（協働性）	・生活アンケートや授業評価アンケート、魅力化アンケート等の実施と、PDCAサイクルによる学校活動の改善 ・スクールカウンセラーや学校医による教育相談の充実 ・教職員による日常的な声掛けと、個人面談による相談の充実 ・各教職員の「主体的、対話的で深い学び」の実現に向けた資質向上（教材研究の充実、公開授業実施等） ・校内及び地域、企業等との協働的な学習活動の機会の充実	⑨生徒は、LHR等での人権学習で、自らのあり方を見つめ直す機会を得ている。 〔　生徒：77%　保護者：75%　教職員：91%　〕 ⑩生徒は、周囲の人に思いやりを持って接しており、周囲の人からも自分が認められていると実感している。 〔　生徒：77%　保護者：86%　教職員：69%　〕 ⑪生徒は、悩みや困りごとに関して相談できる人がいて、相談する機会もある。 〔　生徒：76%　保護者：89%　教職員：71%　〕 ⑫生徒は、地域探究基礎（1年生）、地域探究応用（2年生）、課題研究（3年生）等の探究的な学習により、地域理解が進み、地域課題について考える機会を得ている。 〔　生徒：84%　保護者：84%　教職員：71%　〕 ⑬生徒は、情報ITフェアに関する活動を有意義なものにできている。 〔　生徒：90%　保護者：84%　教職員：83%　〕	⑫、⑬の結果より、協働的な活動については、生徒の実態も意欲も、かなり満足できる状況となっていることが読み取れる。 一方、⑨、⑩、⑪の結果からは、他者や自分の存在が周囲から尊重されていること、相談する人や機会があることについて、2割を超える生徒が不満足な状態であるとわかった。 今後も継続的に、学校と家庭が協力、配慮しながら、さらなる指導を行っていく。	悩みや困りごとを持つ生徒が多いと感じられるので、相談する機会を設けてあげてほしい。 生徒たちに相談する人がいないというのは、深刻な問題であり、様々な不安がある2割強の生徒たちに目を向けてほしい。 困ったとき、悩みができたときに、適切に相談する方法をあらかじめ知らせておくべきである。 自立した人は、他者にヘルプを求めることができる人とも言える。卒業後の社会でも同じなので、ヘルプを求められる人材を育ててほしい。
	Bの肯定的評価平均〔　生徒：81%　保護者：84%　教職員：77%　〕			

重点目標	目標達成のための方策	評価指標と肯定的評価の割合	自己評価と改善策	学校運営協議会の評価（意見）
C デジタルテクノロジーを活用し新たな価値を創造する能力（創造性）	・ICT機器及び本校独自コンテンツ、アプリケーションソフトの積極的な活用 ・授業及び学校行事、地域連携活動における、習得した知識・技術の積極的な活用	⑭生徒は、先生がICT機器等を活用して、授業内容が理解しやすいよう工夫していると感じている。 〔　生徒：84%　保護者：77%　教職員：74%　〕 ⑮生徒は、iPad（3年生）やChromebook（1・2年生）を授業やその他の活動に有効に活用している。 〔　生徒：90%　保護者：84%　教職員：74%　〕	⑭、⑮の結果より、本校のICTを活用した授業や教育活動への取り組みが生徒、保護者に良く評価されていることがわかった。今後これを、生徒の主体性向上にもつなげられるよう工夫していく。	生徒、保護者からしっかりした評価を得ている。 よくやっておられるのではないかと思う。
	Cの肯定的評価平均〔　生徒：87%　保護者：80%　教職員：74%　〕			

〔　生徒：79%　保護者：81%　教職員：68%　〕　肯定的評価（項目A・B・C）の総平均